

令和3年度後期終業式辞

佐賀北高等学校長 糸山 正孝

本日、令和3年度の最後の日を迎えましたが、皆さんにとってこの1年はどんな1年だったでしょうか。

今年度も、新型コロナ感染拡大の影響で、バスハイクや県生活体験発表会など学校行事や対外行事が中止となり、体育大会や文化祭も縮小したものとなりました。本来であれば後期卒業式で卒業生を送り出し、その後に終業式となるところですが、密を避けるということから今度も終業式を中止することになり、非常に残念ですが、皆さんと顔を合わせた交流の機会がなくなりました。交流の機会を求めて次年度もバスハイク、体育大会、文化祭、餅つき大会の開催を予定しています。いろいろな人との出会いが、人生を豊かにしていきます。もし予定通りに開催されれば、是非、参加して、仲間、友だちの輪を広げていきましょう。

こんなコロナ禍ではありましたが、54年の長きにわたって佐賀県の通信制教育をリードしてきた校舎が改築・移転され、3階建ての新しい学び舎が8月に完成しました。新たな北通のスタートの年ともなりました。その船出にふさわしく2年ぶりの定通総体ではバスケットボール部、バレーボール部、陸上部、卓球部が団体や個人で全国大会出場権を獲得し、NHK杯放送コンテストで最優秀賞を受賞したり、高総文祭では、写真部や美術部、文芸部で出展した作品が様々な賞に選ばれたりするなど皆さんの活躍が評価されています。一部の人たちの活躍にとどまらず、今年度もスクーリングの出席率は昨年度を上回り、レポートに対しても分からないことがあつたらいろいろ調べたり、担当の先生に聞いたりしながら粘り強く取り組んでいる生徒が増えていくと聞いています。それぞれが自身の課題や苦悩をなんとかして乗り越えようと頑張っている姿に敬意を表します。



人はそれぞれ必ず誰かのお役に立てる役目を持っています。どんなに辛いときでも歩いていく道を1人1人が持っています。今、世の中が大きく変わろうとしています。私は、どんな状況でも世界は、皆さんのような若者に託され切り開かれていくと思っています。物事を自分で考え、判断し、行動することで自分自身のみならず学校や社会を変える力が身につくと信じています。

縁あって集った仲間とともに北高生としての誇りを胸に何事にも誠実に向き合い精一杯努力して高校生活を充実したものにしてください。

この春休み中に、十分英気を養って、新年度に向けやりたいことや目標を新たに立て、来月4月17日の始業式に、笑顔で元気な姿を見せてください。